



# **PHILIPPINE SURVEY CAMP**

*2019 8/12~8/31 AT TABANGO LEYTE*

*REPORTED BY FIWC KYUSHU*



# Contents

- 1 はじめに
- 2 FIWC 九州とは
- 3 スケジュール
- 4 ワーク地決定
- 5 ワーク内容
- 6 Evaluation
- 7 写真特集
- 8 感想



## 1. はじめに

皆さんは「フィリピン」と聞いて何をイメージしますか？

きれいな海に囲まれた国？  
バナナやマンゴーといったフルーツの国？

リゾート地？

皆さんの想像したフィリピンはもちろん正しいです。  
しかし、私たち日本人の多くが知らない別の顔もあります。  
私たちがキャンプを行うレイテ島では水不足や道路の舗装など

問題を抱えた村がたくさん存在します。  
私たちにできることは何だろうか？  
大学生の力だけではできることは少ないかもしれない。  
それでも私たちにできることがあるのならば  
私たちはフィリピンへ行く。  
村人のため。

「一期一会」

キャンプでの一人一人との出会いに感謝  
支えてくれる全ての方々に感謝  
ともに過ごすキャンパーに感謝  
人間はともに支えあって生きている。  
困っているときは助け合う。

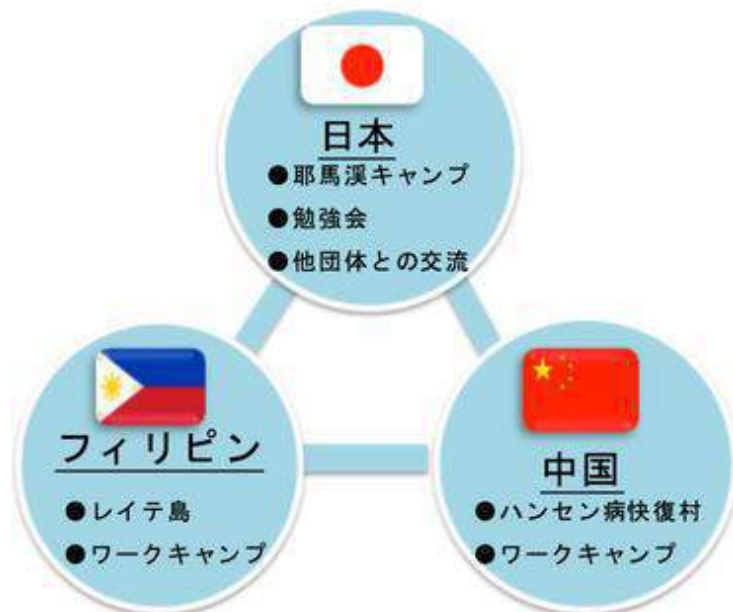
当たり前のことだが、つい忘れてしまうことがある。  
困っている村人を「あなた」の手で「笑顔」にしませんか？  
私たちと一緒に「笑顔」にしませんか？  
きっと、あなたも「笑顔」になるはず。

2019年下見キャンプ フィリピンキャンプリーダー 竹田 匠吾

## 2. FIWC九州について

# Friends International Work Camp

FIWC九州は九州(主に福岡)の大学生が主体となり、学生のみで国内外で国際協力を行っている学生 NGO 団体です。



### <国際活動>

#### ○中国キャンプ

ハンセン病快復村へ行き、村人のケアやインフラ整備を中国の大学生と行う。

#### ○フィリピンキャンプ

フィリピンレイテ島の貧困村を訪れ、インフラ整備を村人と共に行いながら交流を図る。

#### ○ネパールキャンプ

震災支援として、昨年度発足。震災復興の整備を行う。

### <国内活動>

#### ○耶馬溪キャンプ

年3回大分県の耶馬溪で農業体験を行っている。

#### ○FP (FIWC Party)

月1回程度、博多の「びおとーぷ」で行っている勉強会&交流会。

#### ○その他

学祭、まんぱ(Monthly Party)、総会、国内合宿 など

他にも自由な発想で自由な活動を行っている柔軟さがFIWC九州の特徴です。また、FIWCは九州の他、関東、関西、東海に支部があり、互いに情報交換を行いながらそれぞれが自立した活動を行っています。

☆キャンパーだけでなく、国内活動も一緒に参加してくれる大学生を募集中！！

### 3. スケジュール

Mon	Tue	Wed	Tur	Fri	Sat	Sun
8/12 福岡 →Incheon →Cebu	8/13 →Ormoc →Sta.Rosa	8/14 Survey @Campokpok	8/15 Survey @Campokpok	8/16 Evaluation @Sta.Rosa	8/17	8/18 Survey @Manlawaan
8/19 過去のキャン地訪問 @Gimarco @Butason	8/20 Survey @Tugas	8/21 ワーク地決定	8/22 FI 関東訪問 @Calubian	8/23	8/24	8/25 Tugasへ移動 Resurvey
8/26	8/27 LOKLOK さん MTG	8/28	8/29 GAM	8/30 Tugas →Ormoc →Cebu	8/31 →Incheon →福岡	

### 4. ワーク地決定

#### ワーク地決定経緯

今回の下見キャンプでは、3つの村を survey した。そして話し合いの結果、トゥーガス村のプロパー（中心部）で地下水を水源とするポンプの作製及びシティオ（集落）ペリアコラソンで道路の整備を行うことが決定した。今回は survey の方法を変えたことにより、survey 地の一つであるカムボクポク村は2年後にワークを行うことを前提として Survey を行ったため、トゥーガス村とマンラワアン村の2つに絞ってどちらでワークを行うか考えた。マンラワアン村とトゥーガス村でワークを行った際のメリットとデメリットを挙げ、それを深刻性、平等性、確実性、日本人の安全面、利益の範囲と結びつけながら説明していく。

### 〈マンラワアン村〉

メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水道設備の改善、橋の建設を行うことでプロパーとシティオのどちらにも利益をもたらすことができる。⇒利益の範囲</li> <li>・村の予算が多いため、大きな予算がかかるワークを行うことができる。⇒確実性</li> <li>・少しでも雨が降ると道がなくなるため、橋を作ることで村人の生活に良い意味で大きな影響をもたらす。⇒深刻性</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全シティオの要望を1年で満たすことができないため、不平等な状況を作り出してしまう。⇒平等性</li> <li>・滞在地予定のバランガイホールが建設途中で完成していないため、寝泊まりするには危険であり、半年後に完成している確証もできない。⇒日本人の安全面</li> </ul>

### 〈トゥーガス村〉

メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水道設備が昨年と同様のワーク内容のため、ワーク内容が理解しやすくスムーズに進行できる。⇒確実性</li> <li>・シティオの道路を整備することでプロパーまで安全に速く行くことが可能になるため、シティオの水道設備の改善ができなくても、シティオの村人の水の供給量アップに繋がる。⇒利益の範囲、平等性</li> <li>・公共で水の供給を得られる場所が村の各地に増えるため、遠くまで行く必要がなくなると共に、水がなくて困っている生活を大きく変容させることができる。⇒深刻性、平等性</li> <li>・国が見過ごしている道路整備の問題を解決することで、何年間も困っていた状況を断つことができる。⇒深刻性</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンラワアン村よりも用意できる予算が低いため、できるワークに限りが出てくる。⇒確実性</li> </ul>

補足で説明をすると、深刻性に関してはどちらの村も比べようがなかった。そこでトゥーガス村を選ぶ一番の決め手となったのは、昨年と同様のワーク内容が含まれているということだった。昨年のワークは今回の下見キャンパー8人のうち5人が経験しているため、知識や自信が他のワークに比べて大きかった。この経験値を大いに活用することでワークを確実に成功させられることに繋がると考えた。

また、村が用意できる予算に関する問題については、マンラワアン村のほうがトゥーガス村よりも大きな村であるため、マンラワアン村のほうが用意できる予算は大きかった。し

かし、その予算を来年も貯めて2年分の予算を来年のワークに使ったほうがマンラワン村のワークを確実に成功させることができると考えた。なぜなら、マンラワン村はプロパーの水道設備の改善に加えて13のシティオのうち10のシティオが橋の建設を求めている。このワークを成功させるためにはかなりの予算が必要となるため、今回ワークを行うより来年のために予算を備えるほうが最善であると考えた。

また、トゥーガス村は予算が小さいことと日程面で、シティオに関して水道設備の改善ではなく道路の整備を考えていたが、道路を整備することでシティオにすむ人々の水の供給量の増加にも繋がることに気づいた。道路を使用する人々の安全面が確保できると同時に、プロパーから水を汲んで家に持って帰ることがスムーズに行えるようになるため、供給量が増加するのだ。プロパーだけでなく、シティオにも利益をもたらすことができ、まさに一石二鳥の効果をもたらすと考えた。

これらの理由から今回はトゥーガス村でワークを行うことに決定した。

## 5. 2020年度本キャンプワーク内容

### 概要

場所	フィリピン共和国レイテ島タバンゴ市トゥーガス村プロパー（中心部）、ペリアコラソン（集落）
内容	水道設備の改善（中心部にて）、道路の整備（集落にて）
期間	20日間

### 費用

市	100,000P	（約 220,000 円）
村	50,000P	（約 110,000 円）
FIWC	170,000P	（約 360,000 円）
合計	320,000P	（約 690,000 円）

▶トゥーガス村について

人口	1194 人
世帯数	331 戸
citio（集落）数	3 つ

トゥーガス村は去年のワーク地である STA.ROSA 村と同様、海に面した村のため漁師を仕事としている村人が多い。去年の反省として漁師の多い村でバヤニハン（ワークを手伝ってくれる村人）が少ないというのがあった。漁師の人々は朝方、日中、夕方と何度も漁に出かけるため私たちを手伝う時間がないのである。今年も同じことが懸念されるため、トゥーガス村のカピタン（村長）がバヤニハンとして来てくれた村人に 1 人 1 キロのお米をお礼として渡せば、多くの村人が手伝いに来てくれるだろうと提案した。

できるだけ多くの村人を巻き込んで活動を行うことが私たちの理念である共同労働・共同生活に繋がると考えたため、来てくれた村人にお米を渡すことを決定した。



## ・ワーク内容

### ワーク①【水道設備の改善】

地下水が豊富なため、穴を掘って地下水から水を得るポンプを村の各地に数個作製する。(具体的な数は未定)

1つの水源に数個のポンプ、1つの水源に1つのポンプを繋げる2通りの方法でワークを行う。

### ワーク②【道路の整備】

proper (村の中心部) と sitio (村の小さな集落) を繋ぐ道が所々整備されておらず、ハバル (バイク) が通るのは危険であり、雨が降った後は通れなくなるほど道がひどくなる。今回は予算面の関係上、最も危険な坂道部分を整備予定。

道路1m整備するのにかかる費用は約1,000P

今回は約100m整備予定のため約100,000P 必要となる。

バヤニハンが約50人いれば1日で50m整備できるとのことなので、

道路整備にかかる日数は約3日。

# 6. Evaluation

## 【Evaluation について】

Evaluation とは前回のワーク地へ行き前回行ったワーク状況と日本人との生活についてインタビューを行う事後調査である。今回は前回のワーク地サンタローサ村で行った。

## 【2019 年度春ワーク】

場所：フィリピン共和国レイテ島タバンゴ市サンタローサ村

内容：水道設備

期間：2/27~3/27

## 【Evaluation の方法】

- ① ポンプ周辺の家に住む村人にインタビューを行う。
- ② ホームステイを行った家にインタビューを行う。

## 【インタビューの内容】

1. Are you using the water system ?  
(水道設備を使っていますか?)  
→Yes 90% / No 10%
2. Did any inconvenient happen because of the system ?  
(水道設備に関して何か困ったことが起きましたか?)  
→Yes 20% / No 80%
  - ・ガasketが壊れて取り換えた。
  - ・水が塩っぽくて使っていない。
3. Did you enjoy our stay ?  
(日本人の滞在を楽しんでもらえましたか?)  
→Yes 100% / No 0%
4. What did you think about our homestay ?  
(ホームステイはどうでしたか?)  
→Yes 100% / No 0%

## 【総括】

自分たちで作った水道設備を実際に村人が使っている様子を見ると、とても嬉しかった。また、ワークが完成した翌月、乾季に入った。その時、水道設備が整っていない村が水不足になりサンタローサ村に水を汲みに来ていた。私たちの活動がワーク地だけでなく他の村にも影響したことに嬉しさを感じた。しかし、1つだけ使われていなかったポンプがある。理由は水が塩っぱいからだ。対策として村人から挙げたことは、ポンプは今使っているものをそのまま利用し、水源の位置を変えるということ。前回のキャンペー全員一致でこの対策に賛成した。村人が自ら修理をすることを「自立促進」ととらえるなら、前回大きく掲げていた「自立促進」への第一歩であると言えるだろう。洗濯やお風呂、飲み水など生きることに直結する水は大切な資源である。実際にサンタローサ村で村人と共同生活をする中で改めて感じたことだ。この村でポンプを作ったことは現在も村人の生活に大きく影響していると感じた。これから先も長く多くの村人に、これらのポンプを使ってもらいたいと願っている。



## 8. 感想

### たけしよー

今回のキャンプの率直な感想は「悔しい」である。自分はキャンプの途中で体調を崩してしまい、予定通りの下見キャンプを行うことが出来なかった。リーダーとして最後まで全員でキャンプを行えなかったことが悔しい。自分の活動の限界も感じた。自分はオルモックの病院で入院することになったのだが、その期間はもちろん、日本に帰国してからも様々なことについて考えさせられた。



そもそも、この FIWC 九州のフィリピンキャンプは 20 年近く続いているが、歴代の OB・OG の方々の積み上げてきた努力のおかげで、今年も自分たちはワークキャンプを行うことが出来ている。同じように今の私たちの活動が、今後の活動に大きく影響することを知った。

今回の survey 調査では、従来のそれぞれの年で複数の候補地からワーク地を決定する方法から、一度調査した村は 3 年以内にワークを行うという方法に変更した。これまで、ワーク地を決めることはキャンパーにとっての悩みだった。調査はするがワークは行わない村が毎年必ず出てしまう。私たちが選ばなかった村の人々は、毎年さぞがっかりしたことだろう。私たちの行動は、人を「喜ばせる」こともできるが、同時に「悲しませる」こともあると感じた瞬間である。

新しい方法は、その点では悲しむ村人を最小限に抑えることができ、非常に魅力的に感じる。しかし、体調を崩してからは、この活動がずっと続く保証はどこにもないのだとも感じた。だからこそ、20 年間、メンバーを変えながら活動が続いてきたのは「奇跡」なんだなと思った。

体調を崩して感じたことは、「当たり前」に感謝することである。自分の周りの環境がどれほど恵まれているのか。フィリピンには病院に行きたくても行けない子もいれば、毎日の食事のままならない子もいる。私が、こうして大学まで通い、好きなことをしていられることが、どれほど恵まれているのか痛感させられた。

リーダーとして臨んだ 2 回目のフィリピンキャンプは、1 回目の春とは違って「考える」キャンプになったと思う。今後、自分がどのようにフィリピンキャンプに携わるか、フィリピンキャンプがどういった道を進んでいくのかは分からない。自分たちはただの大学生。できることは限られている。ちっぽけな活動かもしれない。それでも、自分たちを必要とってくれる村人がいるのならば、自分たちの活動がほんの少しでも役に立つのならば。私は自分にできることを続けていきたい。

最後に今回の下見キャンプを行うにあたり、支えてくださった委員長をはじめとする FI の



役員の方々、フィリピンキャンプの先輩方、ロクロクさんをはじめとする現地の方々、全ての方々に感謝します。フィリピンキャンプはとてもかけがえのないものです。一人でも多くの方が、フィリピンキャンプを通して、フィリピンなどの発展途上国の現状を知っていただければ幸いです。

## さお

今回のキャンプは今までとは全く違うキャンプになった。

三回目のフィリピン。もうフィリピンに行くことに慣れてしまって、でも出発する前日からワクワクが止まらなくて。いつも空港に着くと初めてキャンプに参

加したことを思い出して。今回は自分が二年生になって初めてのキャンプだったから「しっかりしなきゃ、自分が引っ張っていく立場なんだ。」って思ってたけど、今回の自分のキャンプの目標は、新キャンパーに思いっきりフィリピンキャンプを楽しんでもらえるようにすることと、自分も今までと同じように楽しむ！ということだった。先輩から新キャンパーのことを考えてたり、自分の役職のせいで自分は村人とコミュニケーションが前回よりとれなかったと聞いたことがあった。私は村人が大好きだから何度もこのキャンプに参加しているのにそれじゃ意味ない。そうはなりたくないと思った。だからこの目標を立てた。私を含むキャンパー全員が満足するキャンプにしたかった。正直、途中まではいいリズムでキャンプが遂行していたと思う。

だけど、初めての病院。初めての問題。全くうまく対処できない自分にイライラした。たくさんの人に迷惑をかけて、そのとき自分の甘さをもものすごく思い知らされた。もっとこうしていれば、ああしていればって何回も後悔した。とりあえず今は全員が無事に帰国できることを考えようと思った。たくさん問題を抱えながらなんとか全員無事に帰国はできたけど、今までのキャンプとは違って帰国後に沈んでいる自分がいた。本当にたくさん問題がありすぎて頭が何回パンクするかと思った。だけど沈んでるだけじゃこの状況は変わらないことに気づいた。そして村人のこと、みんなと過ごした時間を思い出しているうちに何が何でもこの人たちのもとへ帰って必ずワークを成功させるんだ、と込み上げてくる自分の強い思いに向き合い、全力で走ることを決めた。こんなに強い思いを持ったのは初めてだった。このキャンプはどこまでも未体験の世界を教えてくれるなあと改めて思い知らされた。

最後に初めてキャンプに参加したときから変わらずに思うことがある。それはこのフィリピンキャンプに出会って、そのおかげで国境を越えた素晴らしい出会い、心の底から大好きだと思う存在に出会って私は本当に幸せ者だということ。(^^)



## ひなこ

村が近づいてくるとなぜか緊張した。道を曲がると道沿いに建ち並ぶ家々や前回暮らしたバランガイホールがあり、その光景を見た瞬間帰省したかのような感覚に陥った。



最初に出迎えてくれた村人はジョーさんというおじさんで手を大きく広げ、ニコニコしながら待っていてくれた。前回のキャンプ時から毎朝起きるとパンとコーヒーを準備してくれて私たちを見つけては家に招いてくれる。なかなか無口な人で「コーヒー、ブレッド」しか喋らない。しかしいつもニコニコしていてそこかジョーさんの優しさが伝わっていた。ある日の朝いつも通り何人かでコーヒーを飲んでいたら突然 "This is my house but also yours house" と言われた。その時村に着いた時の帰省したかのような感覚は、このような村人の些細な優しさからだろうと思った。

さて、夏キャンプは内容もフィリピンに対する考え方も春キャンプとはやはり違っていった。新しい村に訪れる楽しみや、日本人慣れしていない新しい村での村人の多少な戸惑い。ロクロクさんの MTG での緊張感。そして次回のキャンプ地を決める責任感。様々な感情を経験した調査期間だった。村人が今 1 番困っていること、必要としていることなどを直接聞くことで、どれほど深刻な問題であるかということを感じた。前回のキャンプでは見えなかった部分が見えた。だからこそ、村人の期待を裏切るようなことはしたくないし私たちには最後までやり遂げる責任がある。それがどんな形になったとしても。

そして最後に、今回のキャンプで改めて感じたことがある。それは、人は様々な場面でお互いを必要としながら生きているという事だ。例えば、日本人がワークキャンプで村人に対してアクションを起こす。しかしこれは日本人からの一方通行ではないのだ。一見、村人のためだけに行っているようにも見えるが、そうではなく日本人もそれ以上のことを村人から与えてもらう。それは形あるものから形では表せないものまで幅広い。人に何か足りなかったら自分ができることをしたいと思い、自分がピンチの時は誰かが助けてくれる。このことを国境を超えたフィリピンで実感できたのは、人情深いフィリピン人や日本から駆けつけてくれた頼れる先輩、そして一緒に生活した仲間がいたからだ。今まで以上にフィリピンが好きになった。もっとフィリピンのことを知りたいとも思った。

今回の経験を絶対に無駄にはしない。いつか、この経験をして良かったと心の底から思いたい。そのためにはもう少しの時間が必要だが、自分の行動で変えていけると思っている。これから先は自分にできる最大限のことをしていくつもりだ。

## みなみ

私は今回で二回目のフィリピンキャンプだった。しかし、先輩方について行くとにかく楽しかった前回とは全く見え方が違うキャンプになった。私が下見キャンプに参加しようと思った理由は、村人とフィリピンでの生活が大好きでもう一年行きたい！プロジェクトの最初から自分達で作っていき

たい！と、とにかくFIWCのフィリピンキャンプの虜になり、行くことを決意した。

春の本キャンプの時から分かっていたつもりではいたが、自分が下見のキャンパーとして動き始めると、ああ去年、先輩達が下見でたくさん苦勞したり悩んだりしたからワークが成功して、だから私はあんなに楽しめたのだと改めて強く実感した。

いざsurveyをすると、ポンプまでの道がとても悪かったり、遠くまでバイクで水を取りに行く人々、チョロチョロしか出ない水、渡るのがすごく怖い橋、雨が降ると学校に行けなくなる子供達など、実際に見たり話を聞いたりすると、想像していたよりも心を打たれ、早くどうかしてあげたいと強く思った。時間やお金の関係で一回のキャンプで出来ることは限られているので、ではどこを最優先にワークを行うのか。たくさん悩んだ。前回よりも村や村人と正面から真剣に向き合えることができているような気がした。

正直、この下見キャンプは辛いことも多かった。しかし、そんなとき隣には村人がいてくれて、その笑顔に私も元気になれた。ますますフィリピンを好きになった。村人がたくさんたくさん助けてくれた。そしてどんな状況でも割り切って楽しめちゃう、精神的にも身体的にも強い村人達を尊敬した。こんな素敵でフィリピン人の友達と出会えて幸せだ。“part of life!” 私もこの言葉を胸に辛いことも乗り越えられるよう、強くなりたい。

先輩方をはじめ周りの方にたくさん助けていただいて、なんとか下見キャンプを終えることが出来ました。本当に関わってくれた皆様ありがとうございました。



## よこちん

友達にはフィリピン人というあだ名をつけられている。なんで、フィリピンに行くのって聞かれたらフィリピンの友達のところに行くんだと答える。別に、そんな明確な理由なんていらなと思うし、それでいいと思う。2回目のキャンプ、誰よりも楽しむぞという気持ちを持ってフィリピンへ行った。早起きは苦手だからいつも一番最後に起きる。昼はいろいろな人の家を訪問して話をする。フィリピン人って



挨拶するとき眉毛を上にあげる癖がある。これをやると大体みんな笑ってくれる。夜は若者たちと遊ぶことが多い。女の子の話をするか歌うか踊るかお酒を飲む。大体いつもこんな感じ。この時間が一番幸せな時間だと感じる。フィリピンの友人とこんなにも仲良くなったのはなぜだろうと考えてみた。FIの活動のいいところはやっぱり共同生活、共同労働。これだなんて思う。これはFIが他の団体に負けないところだと思うし素晴らしいところ。たまには難しい話もした。専攻している科目についてだったり戦争の話とかもした。でもこの話題は難しすぎて、英語で話すのは厳しかったな（笑）

今年の乾季、FIが活動してる地域は深刻な水不足に陥ったらしい。多くの場所で水が出なくなってしまったという。その時に活躍したのがFIとサンタローサの人々で作ったウォーターシステム。他のBRGYの人たちがサンタローサに水を取りにたくさんやってきたらしい。その話を聞いた時はすごく嬉しかった。FIでやったことがフィリピンの人たちの助けになってるんだなって感じた。

前回ワーク地のサンタローサ村では僕たちが作った、ウォーターシステムを多くの人が使ってくれている。1つだけ塩っぱい水しかでないからだれも使ってないポンプがあった。元々塩っぱかったんだけど5か月たっても改善はされてないようだ。そのポンプは違うところに使ってくれるみたいだからよかったと思う。

今回の下見キャンプで感じたのはろくろくさんの存在の大きさだ。ろくろくさんはフィリピン人でFIWCのフィリピンキャンプに長年協力してくれている人物だ。正直、前回のキャンプではろくろくさんとは挨拶程度しか話さなかった。今回はたくさん話す機会があった。まず、新たなBRGYを訪問する時ファーストコンタクトを取ってくれるのはろくろくさんだ。僕たちはビサヤ語を少ししか話せない。さらにいきなり日本人が来たって信頼関係を築くのは難しい。ろくろくさんはFIのこともよく理解してくれているし、彼無



しでワークを行うのはとても難しいことだろう。今回、下見を行う中で彼が僕らに提案したのは「シリーズのワーク」これは今回下見を行ったすべてのワーク地で将来的にワークを行うということ。僕らは1つのワーク地しか行けない。ワーク地に選ばれなかった村は悲しい思いをする。過去にはもう来ないでくれと言われた場所もあるらしい。話を聞いて、ろくろくさんは僕らには分からないけれど辛い思いもしているのかもしれないなと感じた。。ろくろくさんは60歳を越えている、体調も良くはない。そのろくろくさんがやりやすいような方法で未来のキャンプを行っていくのがいいのではないかと思い。この提案を受け入れた。ろくろくさんは「体がもつ限りFIWCの活動に協力したい」と言ってくれた。フィリピンキャンプの一員であるろくろくさんについてたくさんの人に知ってほしいと願っている。

下見では新たに3つのBRGYを訪問した。「道路が舗装されていないから整備してほしい」「雨の日は川が増水してしまうから橋を作ってほしい」訪れる場所によってさまざまな問題を抱えていた。でもどこへ行っても一番多くの人と言うのは飲み水の不足だ。あるBRGYでは先生、レストランのオーナー、タクシードライバーにインタビューしたが3人とも飲み水に困っていると答えた。「自分たちがやりがいを感じられてフィリピン人が望んでいるワーク」日本でミーティングをした時に新キャンプ地決定の要素の1つとして決めたことだ。ウォーターシステムのワークを行うことはほぼ確実に新キャンプ地を決めることになった。ろくろくさんは最後は君たちで決めてくれと言ってくれた。キャンパーのミーティングの結果、新キャンプ地はBRGYトゥーガスになった。トゥーガスで行うワークは前年度に行ったサンタローサキャンプの内容と似ているので昨年度キャンパーが5人いる今だからこそ、経験を活かして確実性の高いワークを行えるというのが決め手の一つになった。

キャンプ地を決めた後にトラブルがありキャンプの後半は大幅な予定の変更を強いられた自分は役目を果たせたのか、キャンパーの力になれたのかと思ってしまう点もあるがそこは成長できる所だと考えたい。

## まさぴー

僕は今回初めてフィリピンキャンプに参加した。一緒にキャンプに行く仲間やこれまでに僕フィリピンに行ったことのあるキャンパーから楽しいと聞いていたものの、村に着くまでは現地ですぐうまくやっつけられるか、村の人とうまくなじめるかなど微かに不安を感じていた。しかし、そんな不安はすぐに払しょくされた。村に着くと子供たちが真っ先に寄って来てくれすぐに打ち解けることができた。また、



村人たちも僕たちを温かく迎え入れてくれ、とてもフレンドリーだ。また、村の街並みや南国にしかないようなココナツの木やマングローブ、カラバオなどの動物、提供される料理、移動するときに使うハバルやジブニーなどの乗り物、僕にとって目にするもの全てが新鮮で刺激的だった。このように一言でまとめると異世界だな、と感じたフィリピンだがついてすぐは貧困というものはあまり感じられず、人々は自然と共存している感じでむしろたくましい、そういう印象を受けた。とにかく現地での生活は楽しく僕はフィリピンの魅力にすぐに惹かれてしまった。

その後、新しい村へ Survey に行ったりともに生活していくうちに問題があるなという部分も増えてきた。新たな村を訪れてみんな口をそろえていうのは水に困っているということだ。私たちは当たり前のように普段水を飲んでいるが現地ではやはり水を供給するためのパイプが行き届いてない部分があり、山の上の人たちは特に毎回下のほうまで水を取りに行っているという事実を知った。また、水はあっても綺麗じゃないから飲み水には使えず生活用水にしか使えないところもあることを知った。また、道や橋の整備が十分にできていないために雨の日の通学、通勤ができない村人たちもいることが分かった。その他にもトイレの衛生面がやはり気になったり、お金を懇願してくる人を目の当たりにして日本とは違うなと感じる部分が多々あった。

序盤にも述べたが今回フィリピンキャンプに行ったら僕はフィリピン人の人間性や街の魅力に虜になってしまった。だからこそ村の問題点が少しでも改善してほしい、子供たちに毎日楽しく学校に行ってもらいたい、村人たちに元気で伸び伸びとした生活を送ってもらいたいと思った。次のワークキャンプではプロジェクトを完成させ村人たちの笑顔をまたみたい、そう思っている。

## たいせい

今フィリピンから帰国してきて一番に思うことは、今すぐにでもフィリピンに帰りたい。またあの大人達や子供たちに会いたい。またあの風景の中に戻りたい。そんな風を感じた3週間の下見キャンプだった。

初めて村に到着した時、村の人たちみんなが前回の本キャンパーの先輩のところに集まり楽しそうに会話しているのを見て、自分はこの村の人たちと仲良くなれるか不安だった。しかし、すぐに子供たちが自分のところに寄って来てくれて会話をしていた時は本当にこのキャンプに参加してよかったなと感じられるほど楽しかった。キャンプが終わる頃には、この村からもう離れたくないと思うほど村の人



たちのことが大好きになった。今でもフィリピンの人たちと撮った写真を見ていると、今すぐにもフィリピンへ飛んでいきたくなるような気持ちになる。フィリピン人は誰が話しかけてきても友達のように接してくれて、「たいせー！たいせー！」と話しかけてきてくれてとても嬉しかった。フィリピン人を見ているとみんな明るく毎日楽しそうに暮らし、裕福なはずの我々日本人よりもよっぽど幸せに生きていて、いっそフィリピン人として残りの人生を生きたいと思えるほどだった。それくらい毎日が充実していた。

しかしワークとしては、自分自身のキャンプに対する考えの甘さを痛感する日々だった。私は国内ミーティングの時から「初キャンパー」という甘えを使い、ミーティングに積極的に参加できていなかった。フィリピンでも survey や evaluation の時も自発的に行動することができず、誰かの後をただただ付いていただけだった。ほかのキャンパーたちの姿を見ていると、キャンプにかける思いとか考え方とかがものすごい伝わってきて、「自分は何をしに来ているのだろう。」と海を見ながら思いふけるときもあった。でもそんなときにフィリピンの海を眺めていると自然と力が湧いてきて、また頑張ろうと思えるようになった。そして今度の本キャンプでは積極的に行動して後悔のないキャンプにすると心の中で誓った。フィリピンの景色は人の心を動かすなにかがあるのかもしれない。

今回のキャンプではいくつかの村の家庭にインタビューをしたが、みんな口を揃えて言うのは水についてのことだった。実際に村の水源を見に行くとほんのわずかな水源で、よく生活できているなあと感じるほどでした。以前にも村と村をハバルで移動している時にも、水の入ったタンクを肩に担いで移動している姿を何度か目にした。日本に居るときは水なんて蛇口をひねれば簡単に出て普通に飲んでも安全だし、何も困ることはなかった。水はフィリピン人にとって重要なライフラインなんだなと思ったのと同時に、この状況を何とか改善できたらという思いも湧いてきた。今回は歴代のキャンパーたちのキャンプ地にいくつか訪問してみたが、私が一番驚いたのはブタソンの橋だった。本当にこれをキャンパーが作ったのか！と思わされるほどの立派な橋だった。もう業者が作ったといってもおかしくはない。他の村も井戸水を汲むポンプとか立派に作っていて、そんなポンプを村人たちが使っているのを見ると、なんか歴代キャンパーたちのすごさを感じた。自分たちもこれを超えるくらいのワークをしたいと思った。

今回は初海外で初キャンプということもあり不安な気持ちが大きかったが、昨年の本キャンパーたちのおかげですぐに村人たちに受け入れてもらえて、いっぱい子どもたちとも楽しい思い出も作れたし、とても濃い3週間を過ごすことができた。本当に感謝しかない。自分自身の視野を広げられたし、もっといろいろな国をこの目で見てみたいと思うようになった。次回までの自分自身の目標としては、英語をめっちゃめっちゃ極めてペラペラ話せるように頑張って、フィリピンの歌を完コピすること。もっといろいろなフィリ

ピン人と友達になりたい。もっとクレイジー野郎になりたい。もっと自分の殻をぶっ壊したい。次のキャンプ頑張るぞ！

## りんか

初海外！初フィリピン！ドキドキワクワクの気持ちで参加した。高校生のころから海外の田舎で生活することにあこがれていて、大学に入学し、FIWCと出会い、今回、フィリピンキャンプに参加した。行くまではさすがに楽しい、といっても一度か二度は日本に帰りたと思うことがあるだろうと考えていた。でもそんなことは一度もなく、むしろ3週間じゃたりない！まだいたい！と思った。しかし、すべてが自分の思い描いていたように事は進まなかった。楽しい思い出ばかりだが、悔しい思いもした。悔しいと感じたこと



の一つはちゃんとフィリピン人の力になれているのかな、と感じた時だった。私はフィリピンに行って村人の力になりたい、という思いを持ちながら日本でのミーティングに参加したり、フィリピンでの生活を過ごそうとしていたが、実際にフィリピンに行くと自分がフィリピン人を思いやる気持ち以上にフィリピン人は日本人を思っているし、それがうれしくもあり、Surveyする時の励みにもなった。しかし、Surveyは実際にものをつくったりすることはなかったため、直接村人の役に立つことはできなかった。それでも、先輩たちが行ったフィリピンでの活動のおかげで、日本人が来ることをとても歓迎してくれた。村人への感謝の気持ちを表現するために一つ一つの村のSurveyを一生懸命にしたり、春キャンプを成功させるぞ！という思いをもった。もう一つ悔しかったのは、自分の英語力が十分でないため、日本人キャンパーに頼ることが多く迷惑をかけたり、村人とコミュニケーションを充分にとれなかったこと。日本人キャンパーもたくさん助けてくれたし、フィリピン人も私のことを馬鹿にしながらも、へたくそな英語を分かってくれようとした。とても感謝してるし、嬉しかった。でも、もっと英語ができたらいろんなことができたんだろうなと考えると、悔しかった。逆にうれしかったこと、楽しかったことはあげればきりがないほどある。ソロイソロイの時、最初は一人でしていてもどんどん子供たちがついてきてくれて私の知らない場所に連れて行ってくれたこと。毎日あつあつのコーヒーをいれてくれるおじいちゃんのジョーさんがいたこと。洗濯物めんどくさいなあって思っていたも子供達と一緒にやってくれたこと。こんなフィリピン人の優しさに触れることができたからフィリピンが大好きになったし、絶対春のキャンプ成功させたいって思えた。初めての参加にも関わらず、分らないことや意見をきちんと聞いてくれたり、常に優しく接して下さったキャンパーのみなさん、ありがとうございました！



竹田 匠吾(九州大学2年):リーダー・会計

森 日向子(中村学園大学2年):ワークリーダー

日隈 実奈美(西南学院大学2年):イベント・SP

永吉 彩桜(西南学院大学2年):ワークリーダー

横光 宏亮(西南学院大学2年):イベント・KP

岩木 雅浩(九州大学2年):会計

田中 凜花(西南学院大学1年):SP

武藤 大晟(西南学院大学1年):イベント

あなたもフィリピンで人生変えてみませんか？

Mail [fiwcq@hotmail.com](mailto:fiwcq@hotmail.com)

Twitter @fiwckyushu

Facebook FIWC Kyushu

Instagram fiwckyushu

HP <http://fiwckyushu.jimdo.com>